

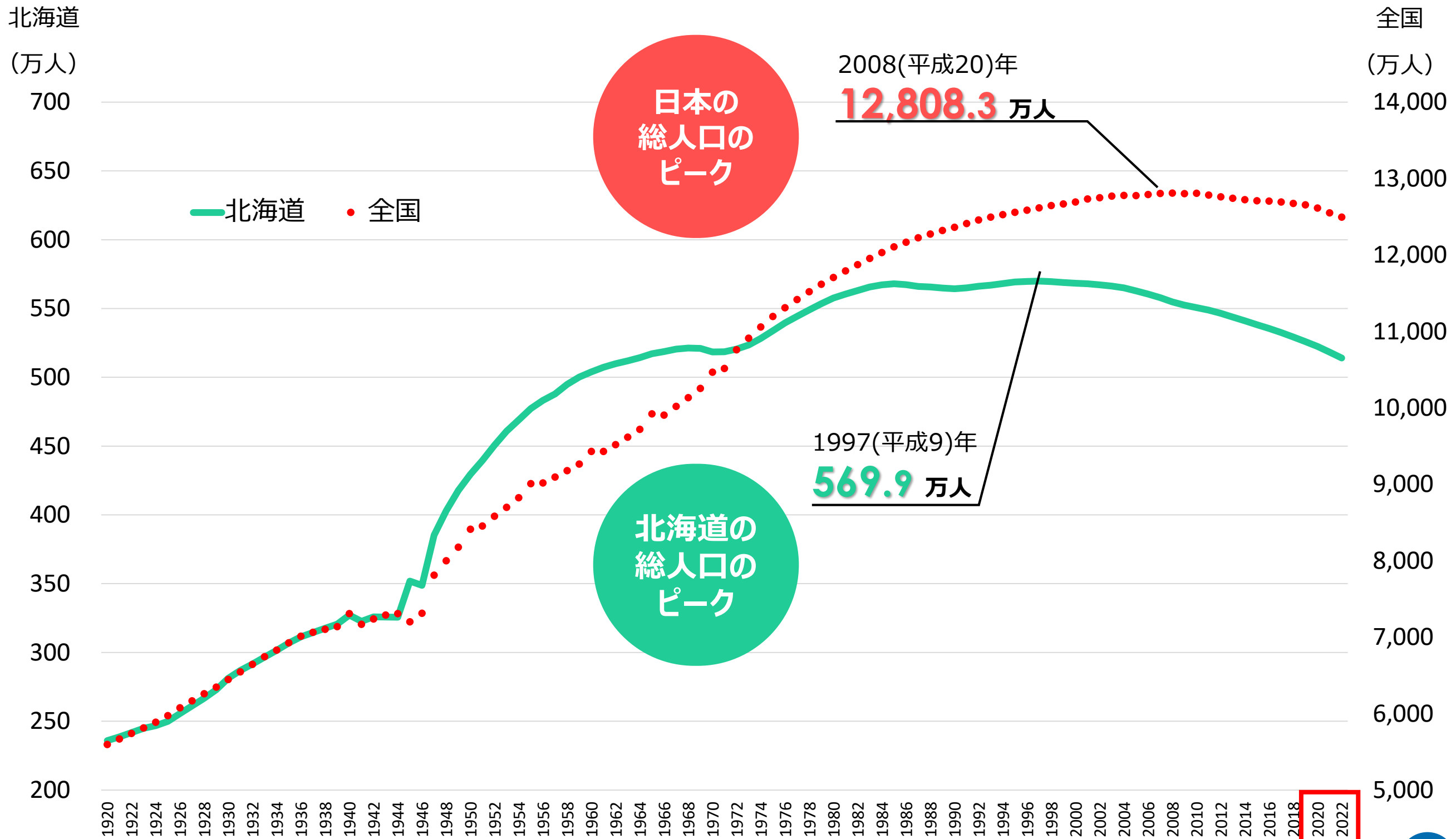
「人口ビジョン」関連データ

1. 総人口
2. 自然増減
3. 社会増減
4. 札幌市への人口集中
5. 外国人の人口動向
6. 将来推計

1. 総人口

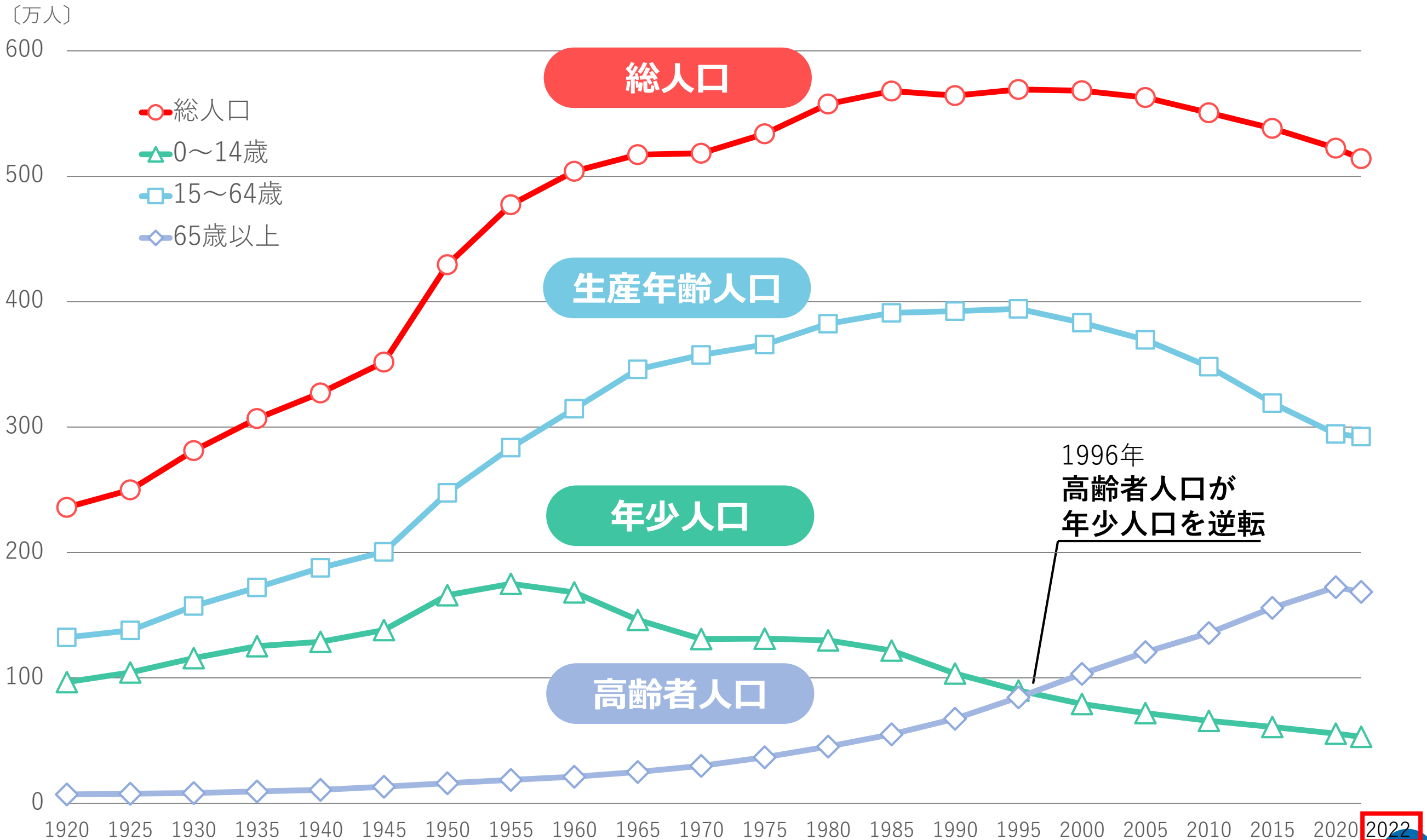
総人口の推移（全国・北海道）

● 北海道の人口は、1997年（平成9）年に約570万人に達して以降、減少に転じており、人口ビジョン改訂版から引き続き、全国を上回るスピードで人口減少が続いている。



年齢3区分別人口の推移（北海道）

● 人口ビジョン改訂版から引き続き、生産年齢人口及び年少人口は減少、高齢者人口は増加となっている。



年齢3区分別人口割合の推移（全国・北海道）

- 人口ビジョン改訂版から引き続き、生産年齢人口割合及び年少人口割合は減少、高齢者人口割合は増加となっている。

		1920年 (大正9年)	1970年 (昭和45年)	1990年 (平成2年)	2015年 (平成27年)	2020年 (令和2年)	2022年 (令和4年)
年少人口 (0～14歳)	全 国	36.5	24.0	18.2	12.6	11.9	11.6
	北海道	40.9	25.3	18.4	11.4	10.7	10.3
生産年齢人口 (15～64歳)	全 国	58.3	68.9	69.7	60.7	59.5	59.4
	北海道	56.1	69.0	69.7	59.6	57.2	56.9
高齢者人口 (65歳以上)	全 国	5.3	7.1	12.1	26.6	28.6	29.0
	北海道	3.0	5.8	12.0	29.1	32.1	32.8

総務省「国勢調査」,2022年は総務省「人口推計」

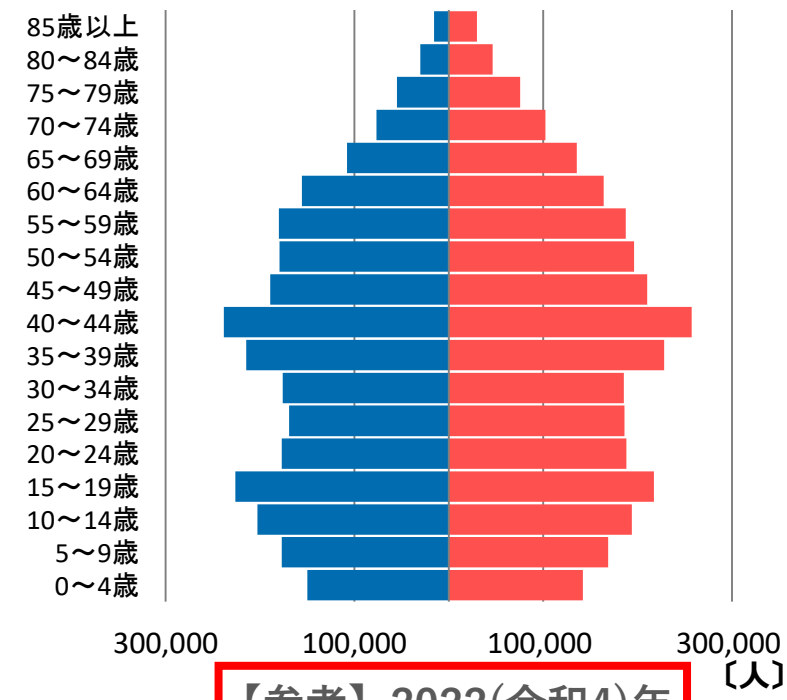
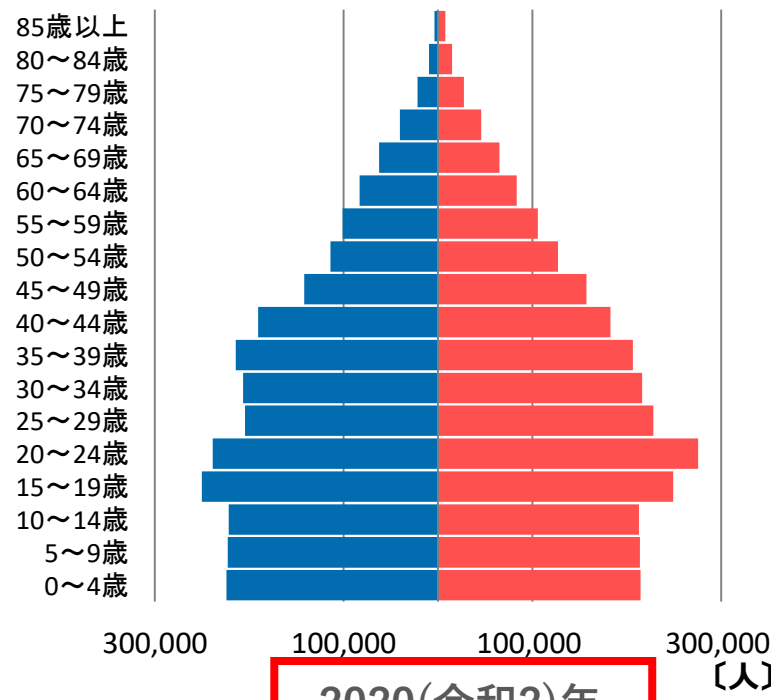
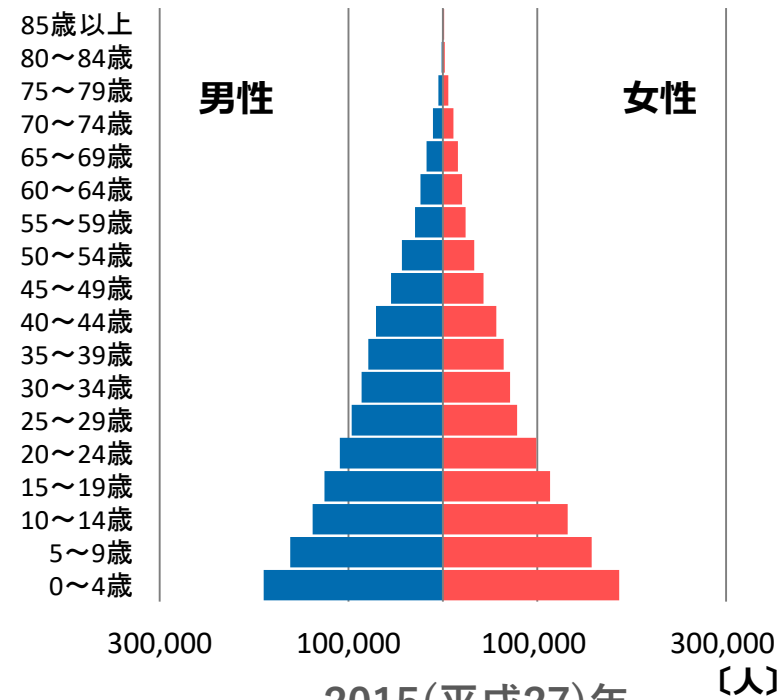
男女・年齢別人口（人口ピラミッド）の推移

● 年少人口の減少、人口規模の大きい世代が後期高齢期に入ることによる死亡数の増加により、今後しばらくは自然減が続くことが予想される。

1920(大正9)年

1970(昭和45)年

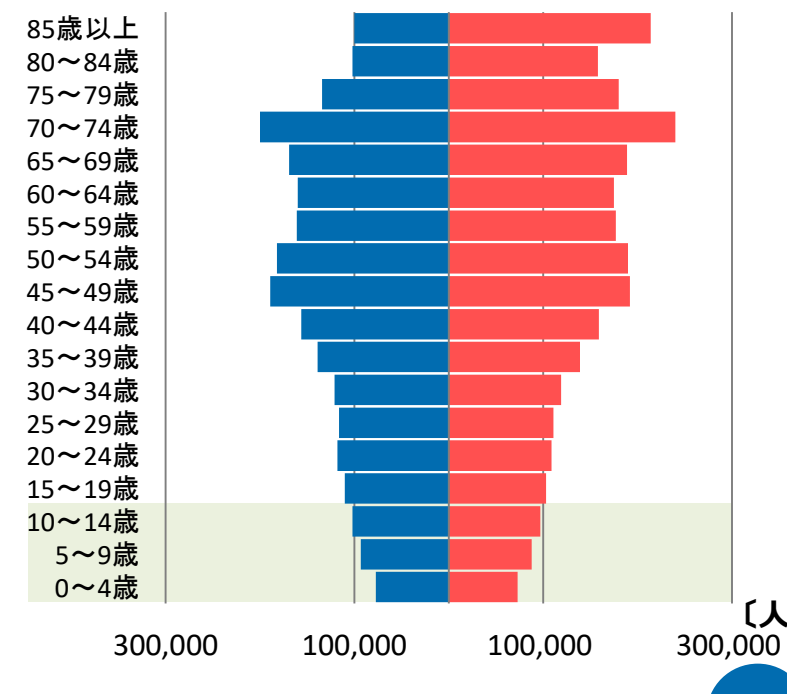
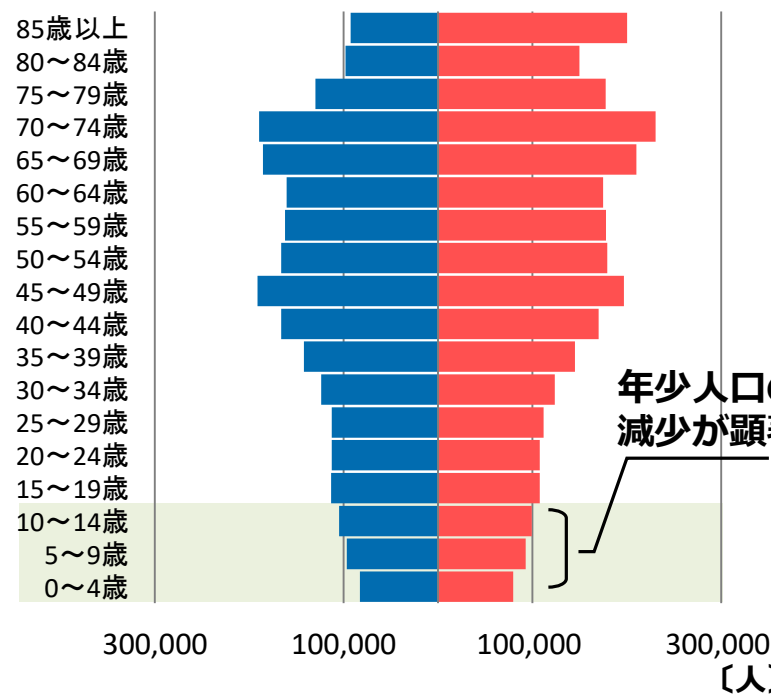
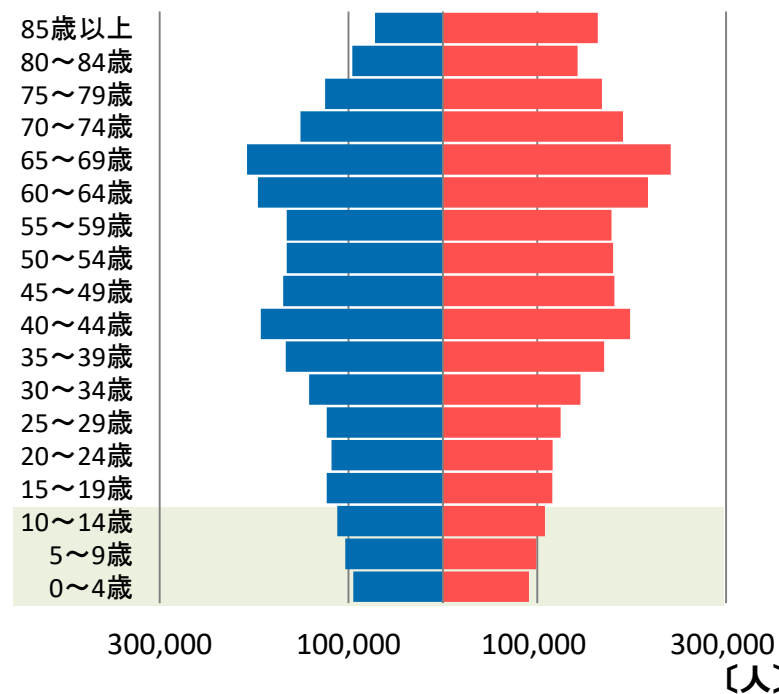
1990(平成2)年



2015(平成27)年

2020(令和2)年

【参考】2022(令和4)年

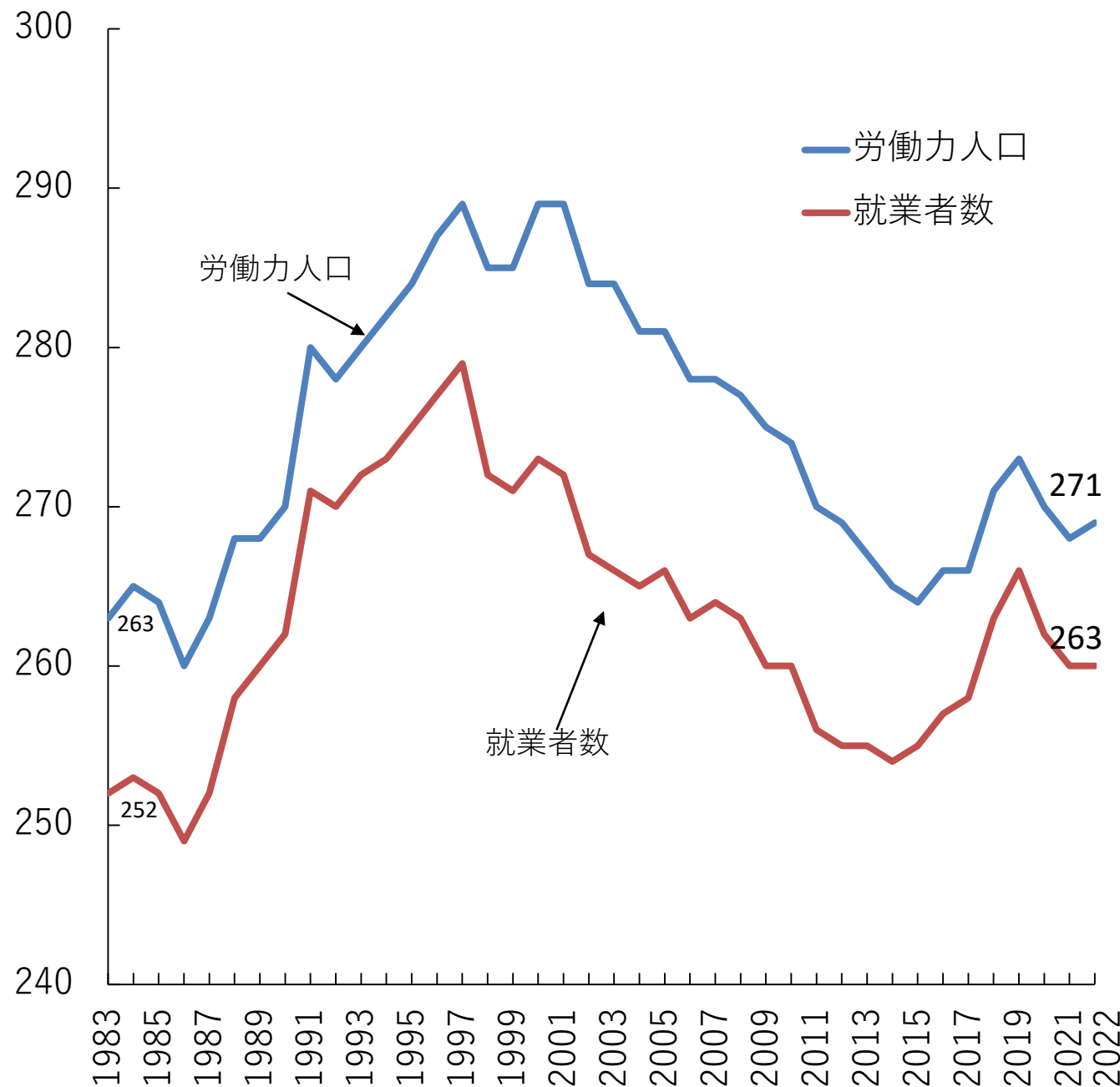


労働力人口・就業者数の推移（北海道）

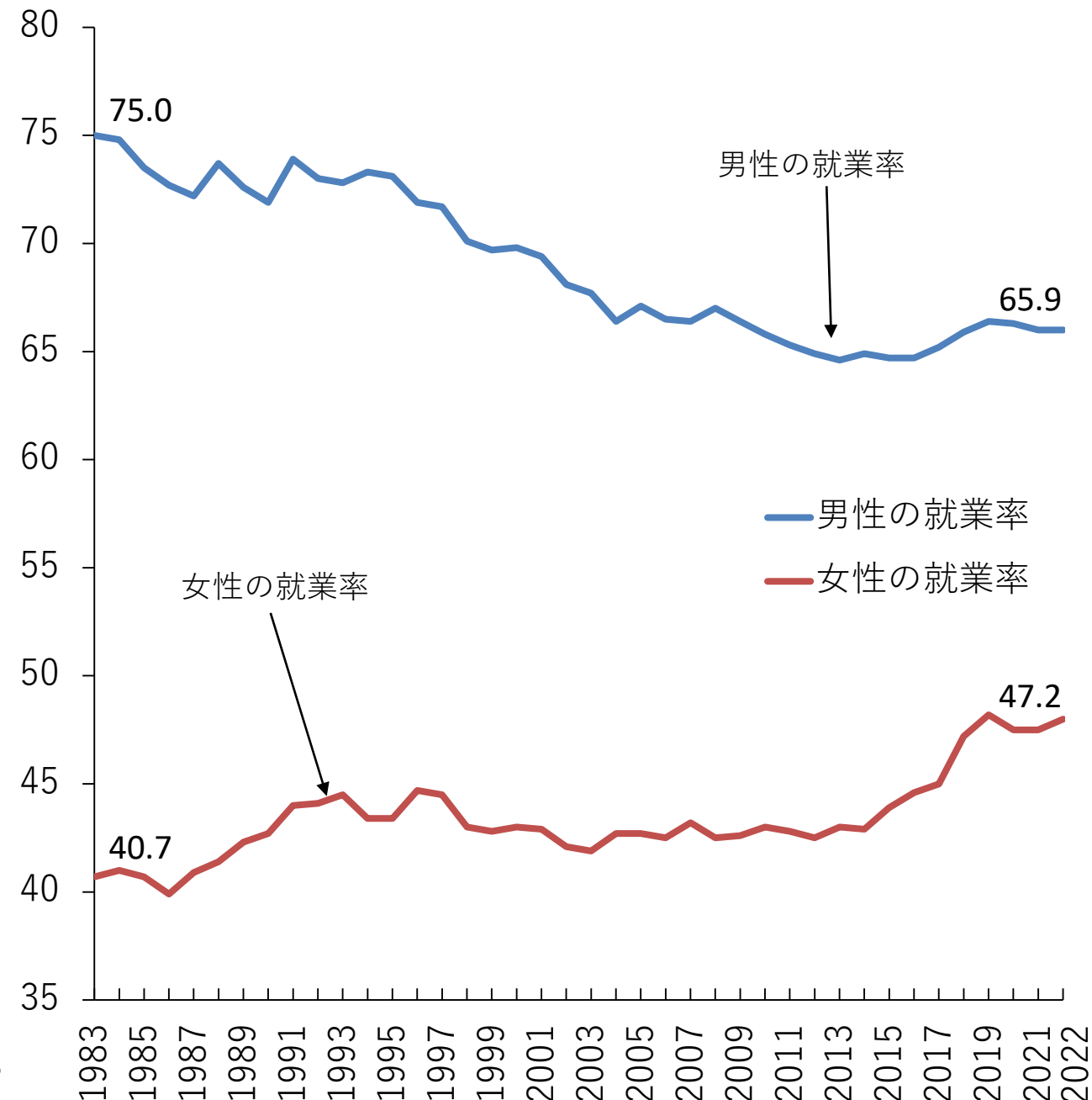
人口ビジョン掲載無し

● 労働力人口は2015年まで減少傾向にあり、2015年以降は人口が減少する中でも、女性の就業率の増加などにより増加。その後新型コロナウイルス感染症の影響を受けて再び落ち込んだが、直近数値は改善が見られる。

労働力人口・就業者数の推移（単位：万人）



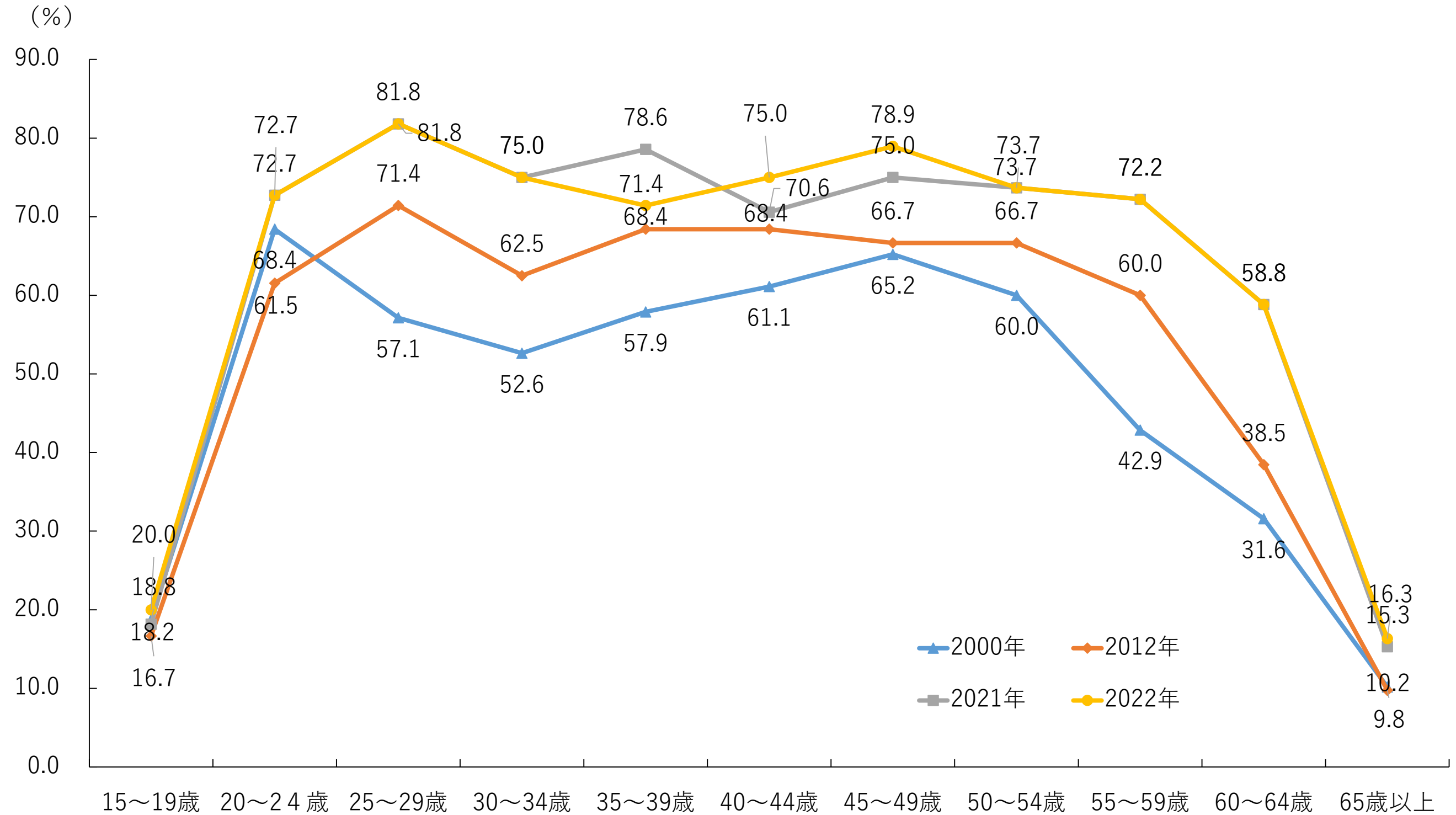
就業率の推移（単位：％）



女性の年齢階級別就業率（北海道）

人口ビジョン掲載無し

● 女性の年齢階級別就業率は、大きく上昇してきているが、未だ「M字」カーブは存在。近年はカーブは浅くなり、M字の底となる年齢階級も上昇している。

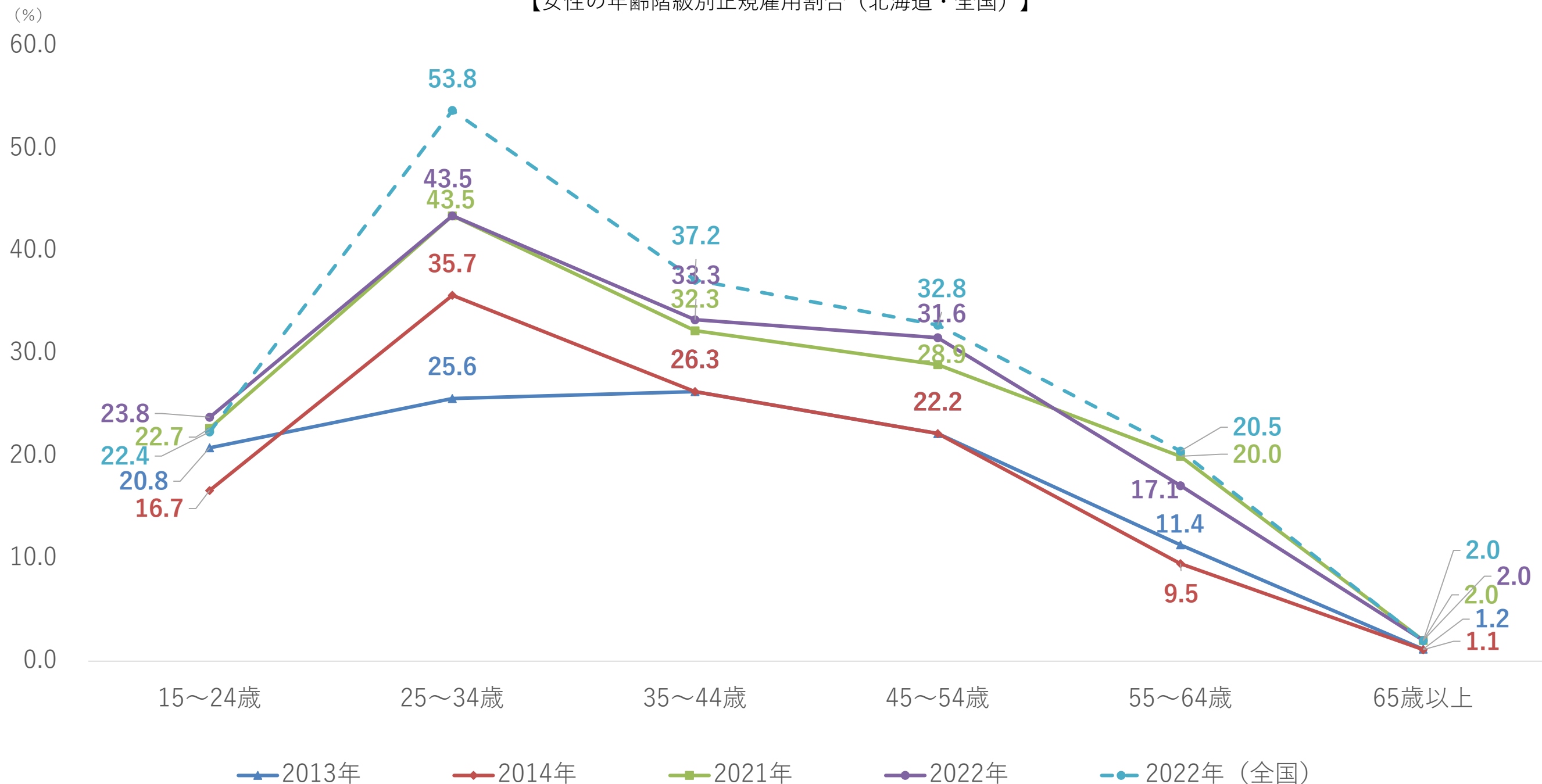


女性の年齢階級別正規雇用割合（北海道・全国）

人口ビジョン掲載無し

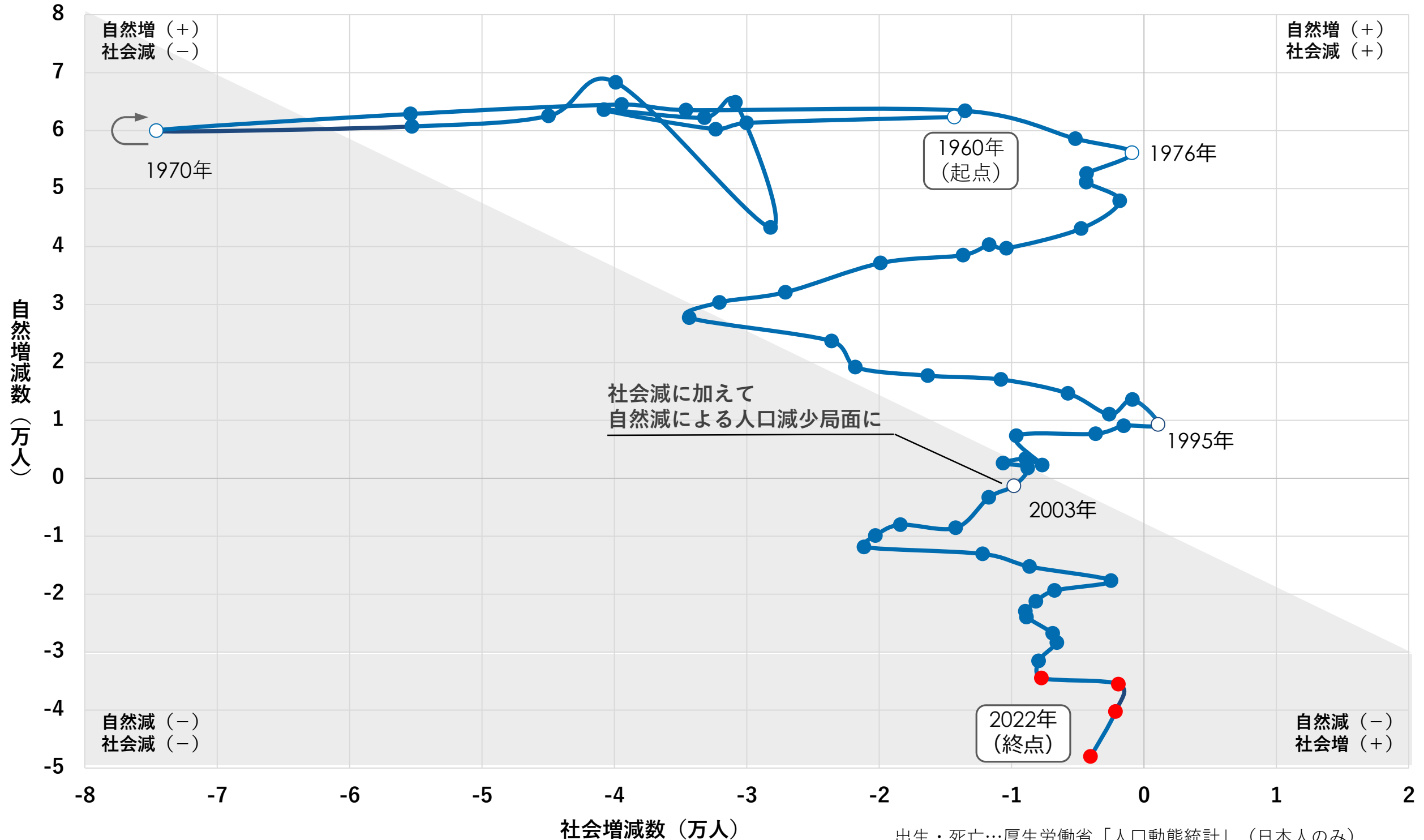
● 北海道の女性の年齢階級別の正規雇用割合は上昇してきているが、若年層において全国を下回っているところ。また、女性の正規雇用割合が20代後半をピークに低下し続けていく「L字」カーブは道を含め全国的な傾向となっている。

【女性の年齢階級別正規雇用割合（北海道・全国）】



総人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の影響

● 人口ビジョン改訂時と比較すると、社会減は小さくなっているが、自然減は大きくなっている。



出生・死亡…厚生労働省「人口動態統計」(日本人のみ)
 転入・転出…総務省「住民基本台帳人口移動報告」(日本人のみ)

市町村別人口増減

人口ビジョン掲載無し

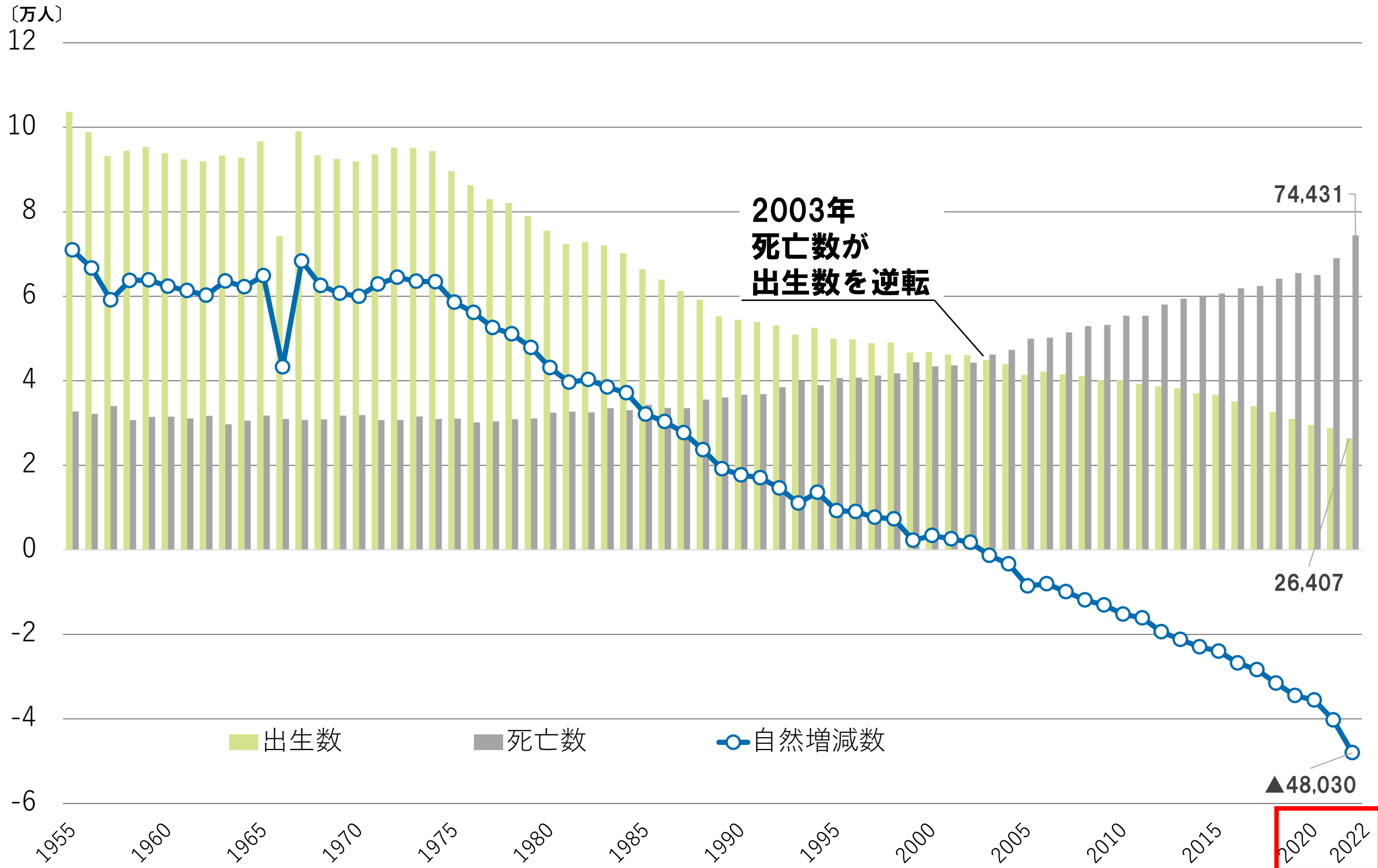
- 人口増加市町村は外国人の増加もしくは札幌近郊であることが要因と考えられる。人口減少数上位は石狩管内を除く地域の中核市等で、札幌市については近年人口減に転じている。

人口増加市町村 増加数順						人口減少上位10市町村 減少数順					
順位	団体名	2022年 増減数			2021年 増減数	順位	団体名	2022年 増減数			2021年 増減数
			(自然増減)	(社会増減)					(自然増減)	(社会増減)	
1	倶知安町	847	▲ 55	902	▲334	1	旭川市	▲ 3,774	▲ 3,460	▲ 314	▲3,437
2	東川町	211	▲ 72	283	▲47	2	函館市	▲ 3,675	▲ 3,232	▲ 443	▲3,785
3	南幌町	168	▲ 65	233	▲69	3	釧路市	▲ 2,627	▲ 1,802	▲ 825	▲2,557
4	占冠村	165	▲ 7	172	▲86	4	小樽市	▲ 1,878	▲ 1,657	▲ 221	▲2,024
5	ニセコ町	142	▲ 28	170	▲50	5	室蘭市	▲ 1,734	▲ 1,057	▲ 677	▲1,593
6	恵庭市	71	▲ 360	431	11	6	岩見沢市	▲ 1,359	▲ 970	▲ 389	▲1,240
7	大樹町	16	▲ 50	66	▲28	7	北見市	▲ 1,290	▲ 1,183	▲ 107	▲1,109
8	猿払村	10	▲ 18	28	▲95	8	苫小牧市	▲ 1,229	▲ 1,192	▲ 37	▲677
9	鶴居村	4	▲ 21	25	▲39	9	札幌市	▲ 1,156	▲ 12,215	11,059	▲907
	—	—	—	—		10	帯広市	▲ 1,033	▲ 1,260	227	▲623

2. 自然增減

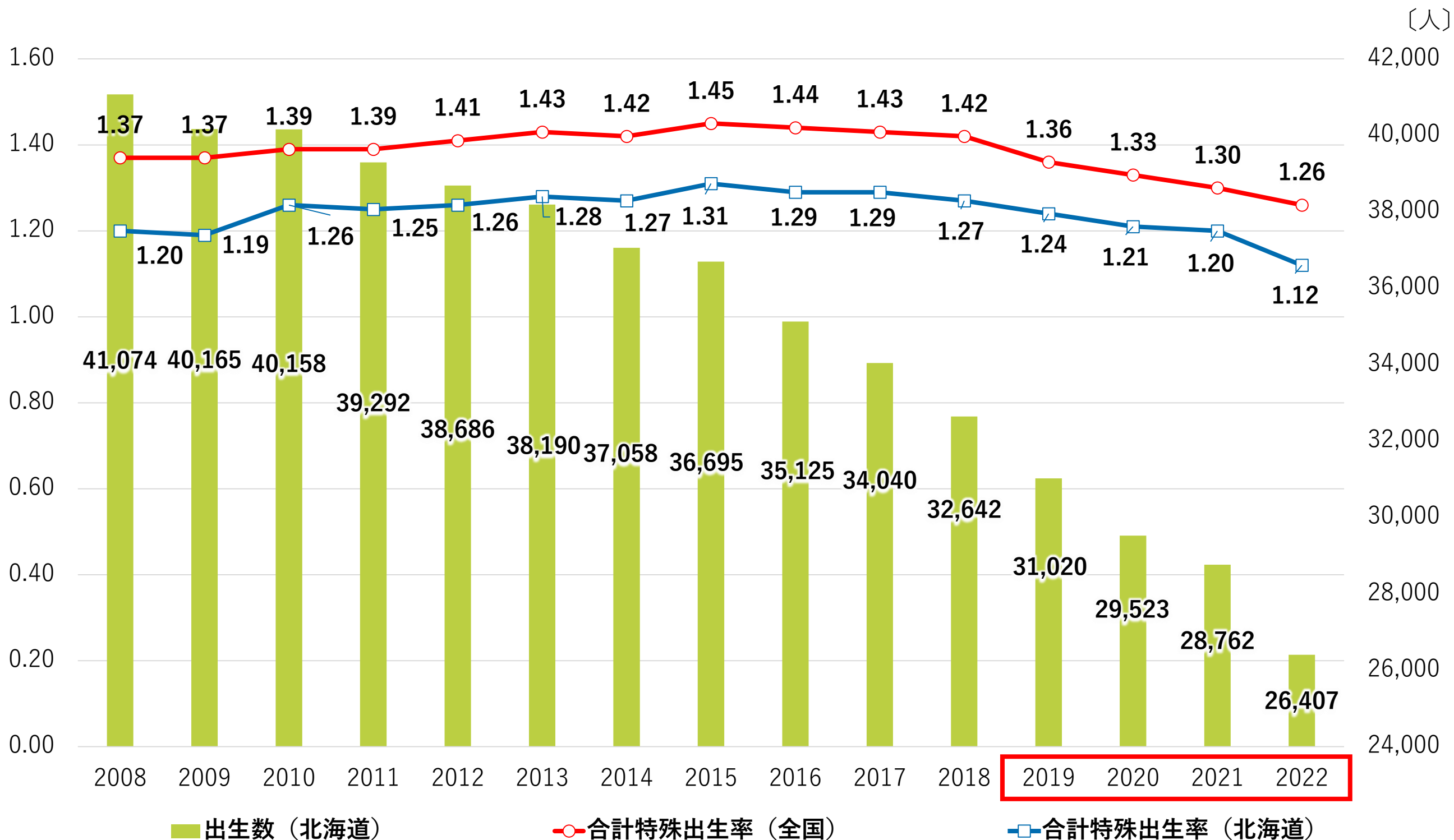
出産数・死亡数・自然増加数の推移（北海道）

● 人口ビジョン改訂時以降、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、出生数は大幅に減少。また死亡数増加の傾向も強くなっており、自然減が増加し続けている。



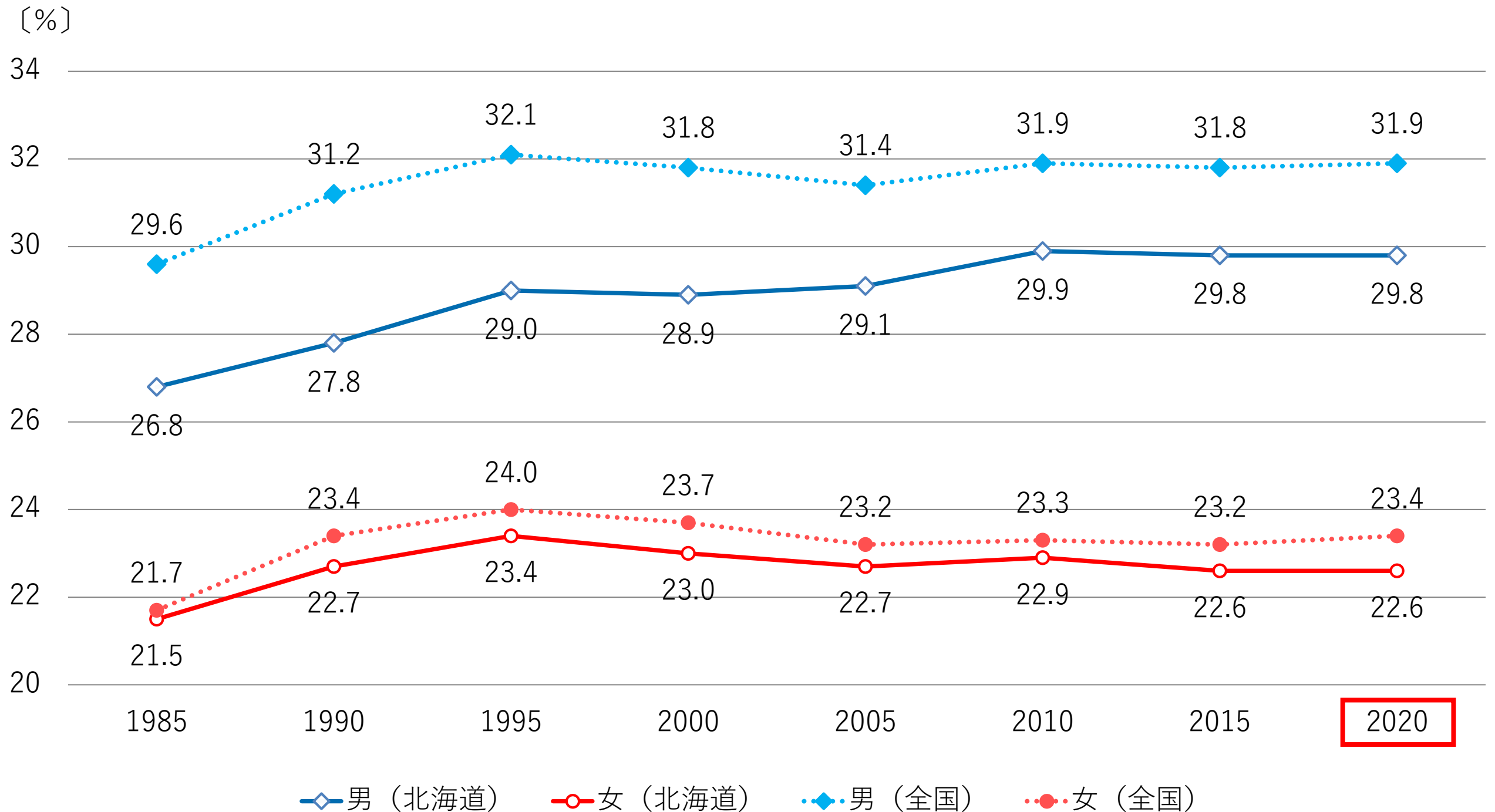
合計特殊出生率の推移（全国・北海道）

● 人口ビジョン改訂時から引き続き、本道の合計特殊出生率は全国より低く推移しており、2022年では、東京都、宮城県に次いで全国で3番目に低い状況となっている。



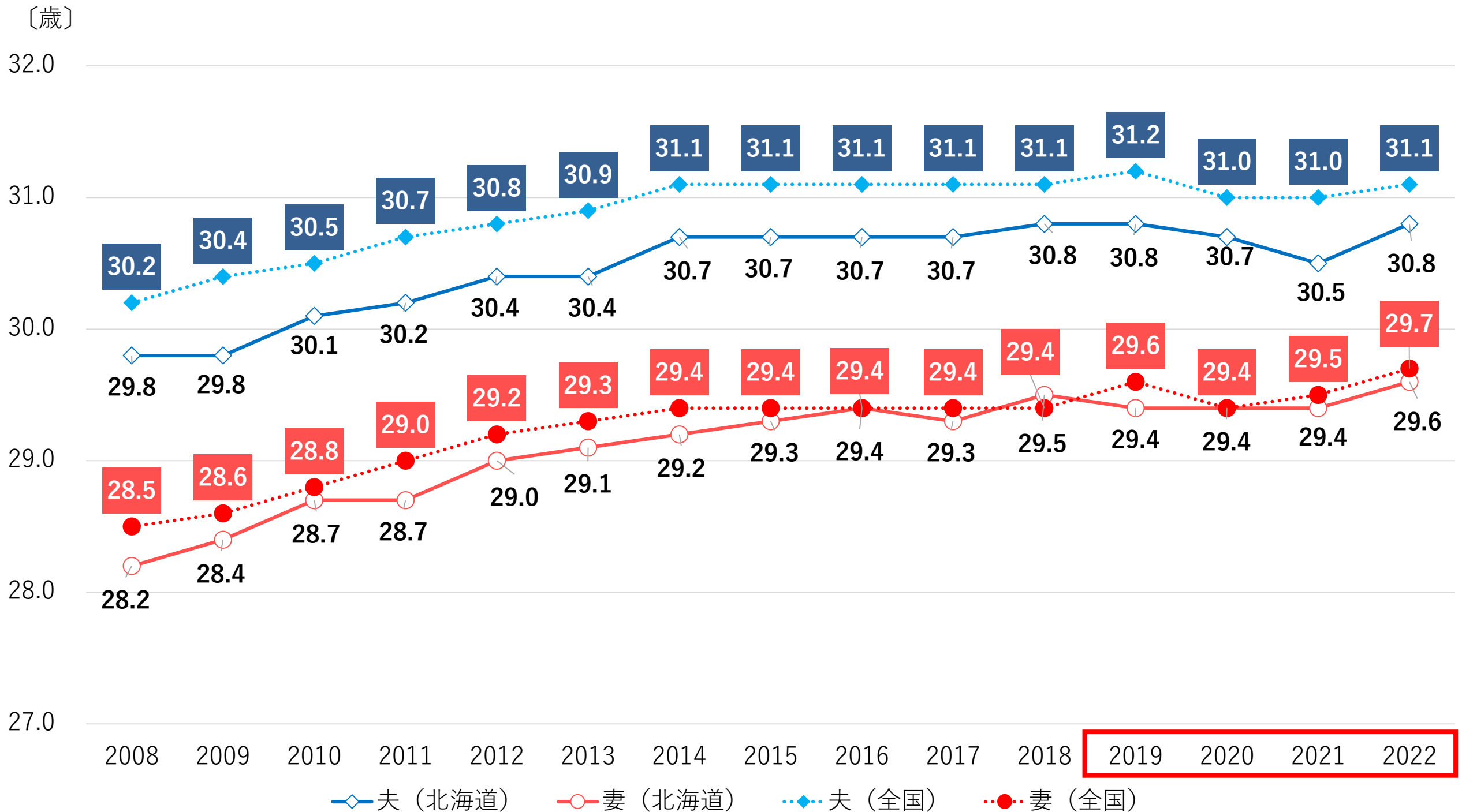
未婚率の推移（全国・北海道）

● 本道の未婚率（15歳以上に占める未婚者の割合）は、全国平均と比べるとやや低く、2020年では男性29.8%、女性22.6%となっており、2010年からほぼ横ばいとなっている。



平均初婚年齢の推移（全国・北海道）

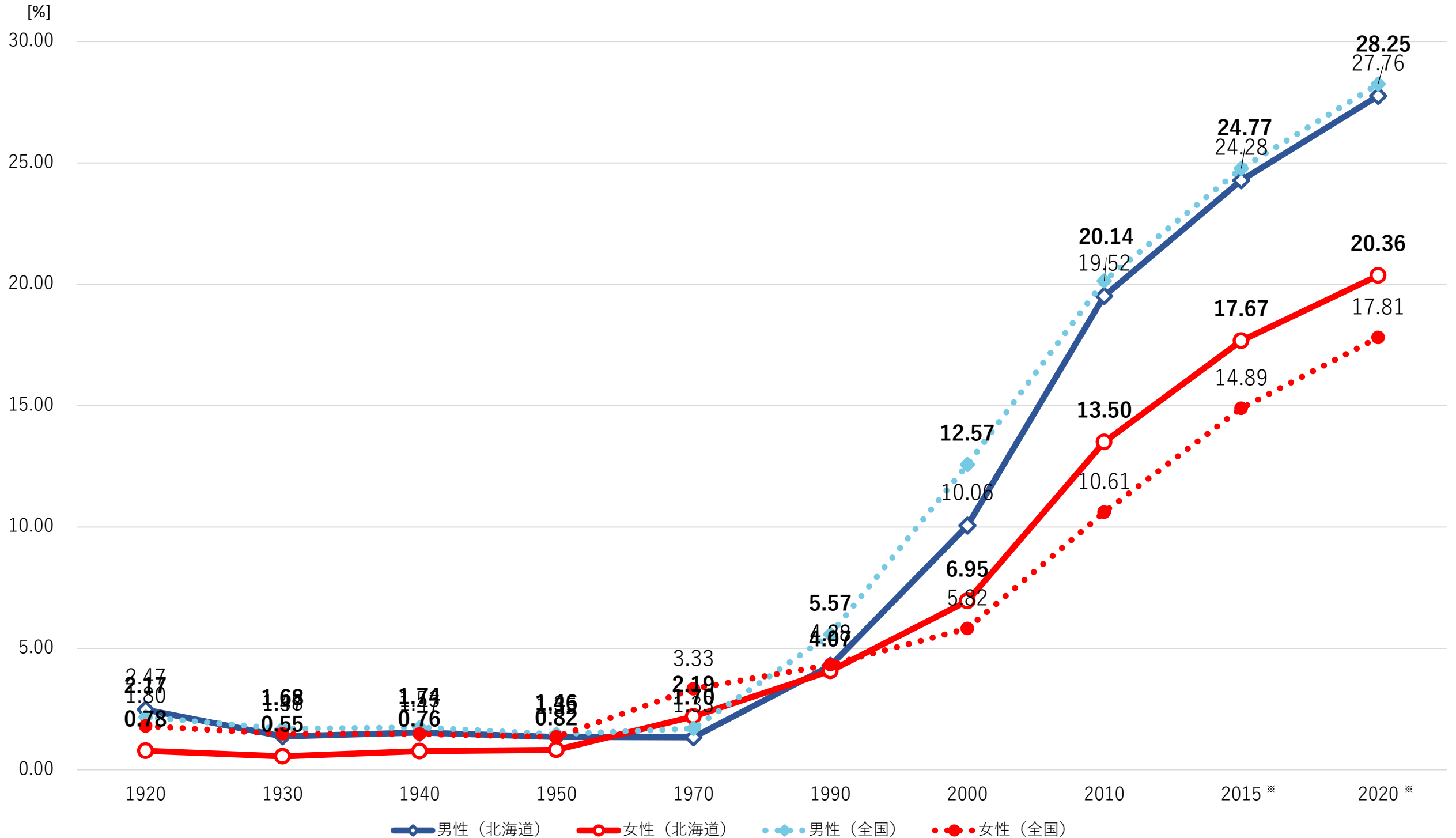
● 2008年と比較して、2022年の全国数値では男性で0.9歳、女性で1.2歳上昇しており、北海道でも男性で1.0歳、女性で1.4歳上昇しているが、近年は横ばいの傾向にある。



50歳時の未婚割合の推移（全国・北海道）

人口ビジョン掲載無し

● 男女ともに50歳時の未婚割合は上昇傾向。北海道では、2000年に比べると男性で17.7ポイント、女性で13.41ポイント上昇している。

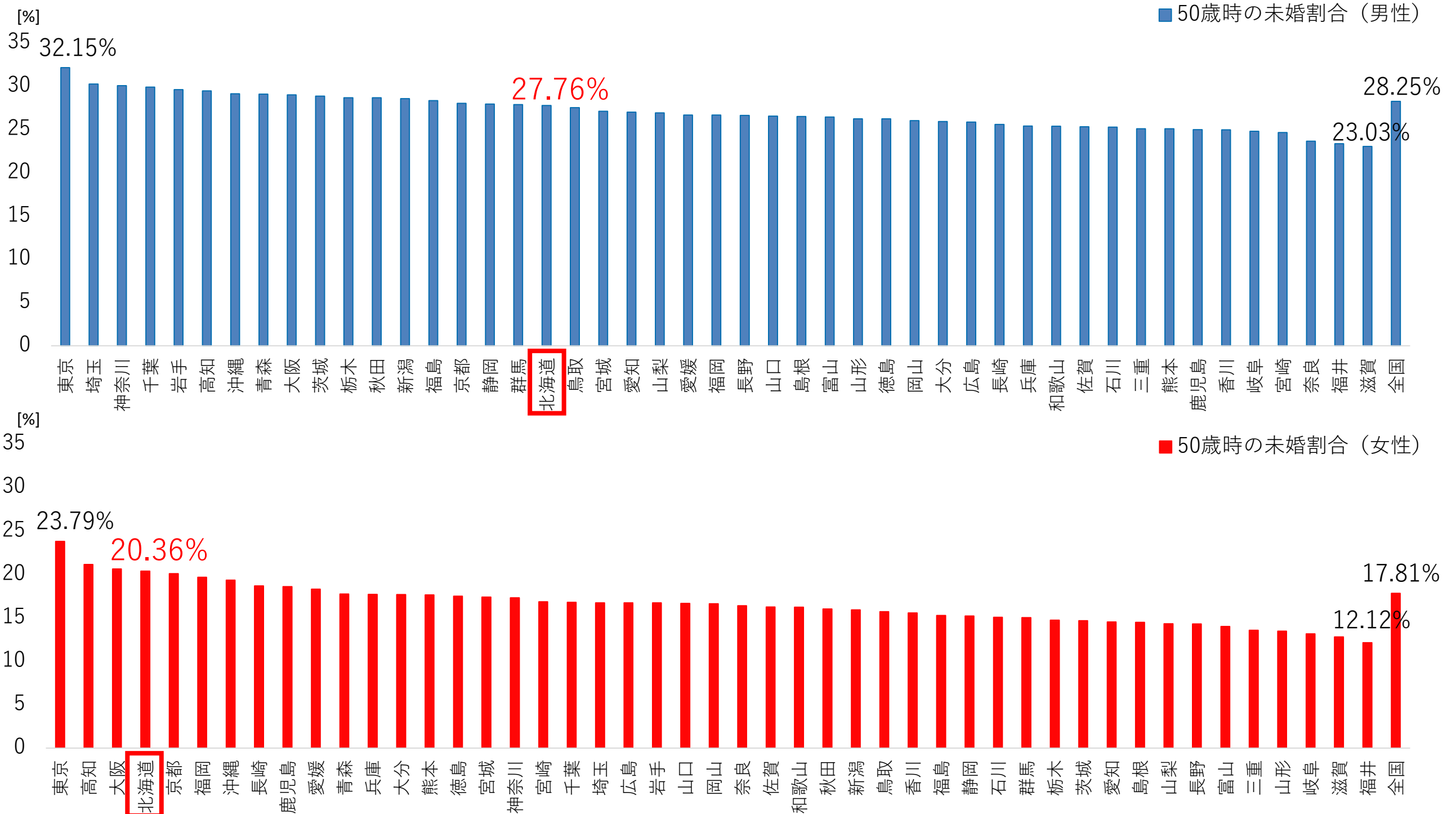


国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」
 国立社会保障・人口問題研究所の算定による。45～49歳と50～54歳未婚率（配偶関係不詳を除く人口を分母とする）の平均値。全国は沖縄県を含む。*不詳補完値に基づく。

都道府県別50歳時の未婚割合（2020年）

人口ビジョン掲載無し

- 男性の未婚率は27.76%、女性の未婚率は20.36%となっており、女性の未婚率は東京都、高知県、大阪府に次いで4番目に高い。



国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」
 国立社会保障・人口問題研究所の算定による。45～49歳と50～54歳未婚率（配偶関係不詳を除く人口を分母とする）の平均値。全国は沖縄県を含む。*不詳補完値に基づく。